娘
金
へ13
3712

前編上冊
嶋田之黒本
前垂之赤本
娘金平昔繪草紙
六冊紙
文政辛巳新彫
種彦作
國貞画
前編

柳亭種彦作
歌川國貞画
貞享元禄ノ頃専流布セシ和泉丹波ガ
瑠璃ニ倣ヒ號テ娘金平ト云
全部六冊
偽鶴堂梓
油竹文庫
3712
巻

俳諧をよくす世に知られる神野忠知を通稱長三郎とのひ。昌雲軒春清が門人なり。鹿驚集晴小神社の俳書に秀吟あり。

白炭や焼ぬむしの雪の枝

就中。

人稱白炭の忠知とかや。

貞徳老人

京傳子の巴山人なり巴山人はえんどうの六角だらけ

○本邦の唐本のうんぬんは唐本の作法をうんぬんの意

○長崎の唐本問屋面目とのこと

考へ抜きたるなり。頃日刊行する。隨齋諧話ふ此説あまたび可止ことと獨はなちつ。火鉢の裡へ入るべきもの。書ぬむしの雪の白紙白灰となりてそ消うせける。不思議や煙とのろとのふ。ふとこの老人あらはれ出て完爾とうくのうち白むし話ふ。うち散る灰の奇特ふ。ふとこの糸とよそへ梢ふ花さきの。糸とよそへ負徳とよまるべきものとあくまでそとよる。汝原来俳道を知るべきもすまたび故人の句を論ずるの光すぎるの。つくづくるに世話とかふ。餅のとよそへ餅屋ふまるせ。是等を趣向の種とする例の草紙を編る私の根ふ。そのあんをまて。告ると投りつ夢さあらう。嗚呼あまてりのかそまと結井其角が雜談集ふ。忠知ハ腹きろと死ろと見えたる。附會すくろ根なりと。譬ば何人の句ゆとせ。今の世までも白炭と

白山茸も焼ぬ　忠知

むしの

ゆ麦のえご

右ハ松江重頼ぶ
えんよあ[illegible]
小夜中山集ふ
「[illegible]」

千野の蝶三郎

白茸も焼ぬ　撞友

ゆ麦むしえご

右ハ良保ぶえんよあ
破枕集ふ
「[illegible]」

蝶三郎女房小濱
初名濱路

千野屋
蝶三郎

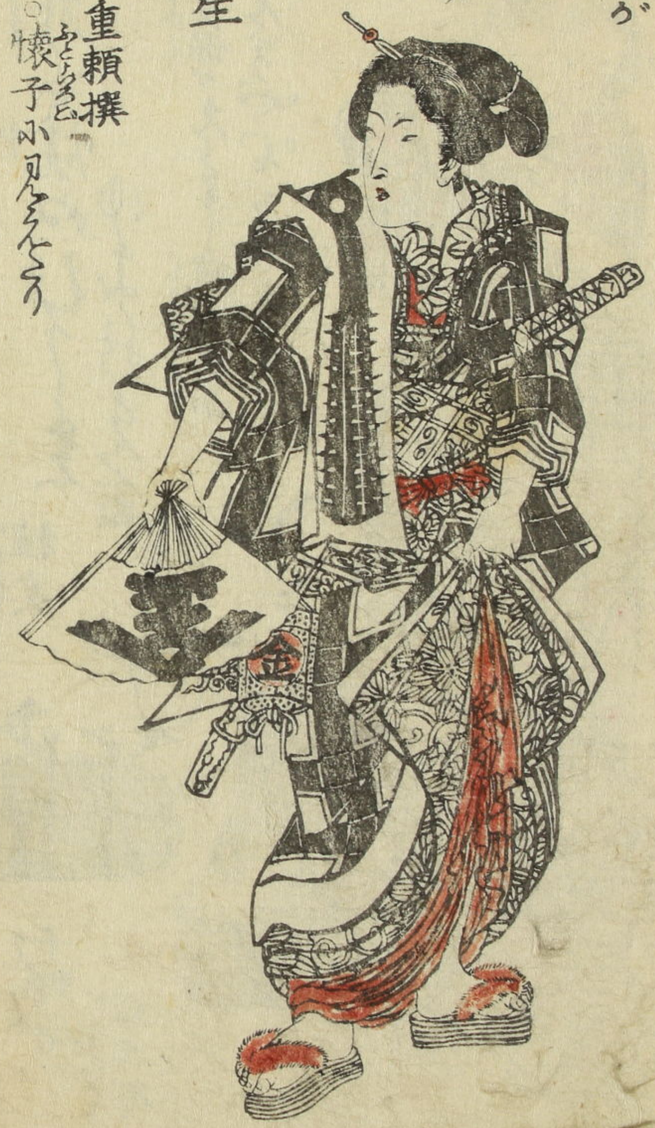
似る物が女夫なるや二星

自徳

女侠金平の於金

此句重頼撰

懐子小男



似る女夫ふるるや二星

初知

此句立以撰

烏帽子箱ふ

女侠辨慶の於辨

蝶

扇子

平金煙管
前垂の赤本
全一絶一冊
下
鞠慶の旅鞠
國貞画
彦兵衛板

國貞画
種彦作
華斜仲道

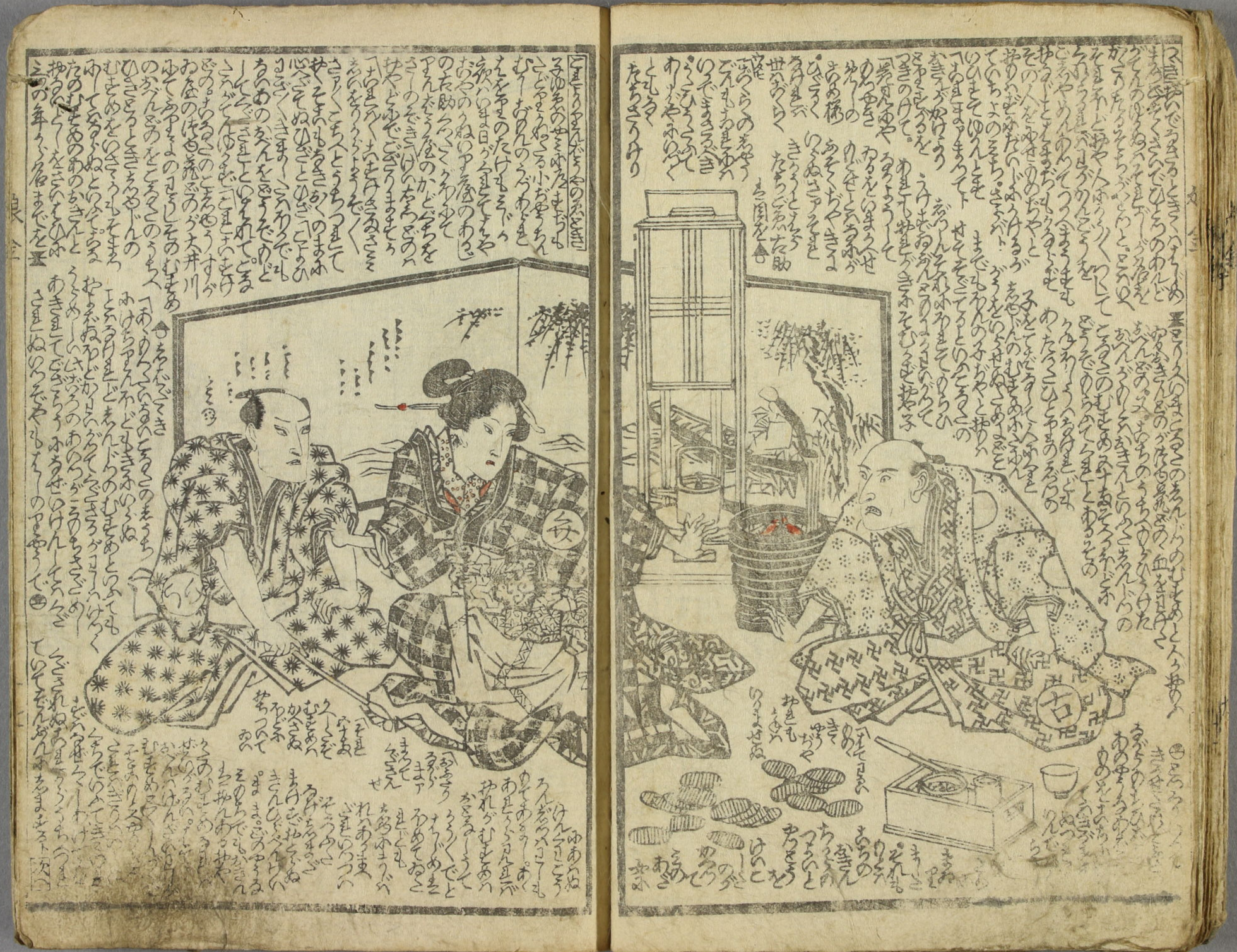
柳亭種彦作
歌川國貞画

紅葉亭

娘金平昔繪草紙

文政辛巳新彫

偃鶴堂梓



女金

金

せんとうをつくる
下八
中心

娘金
つぎへまつ

娘金
十一

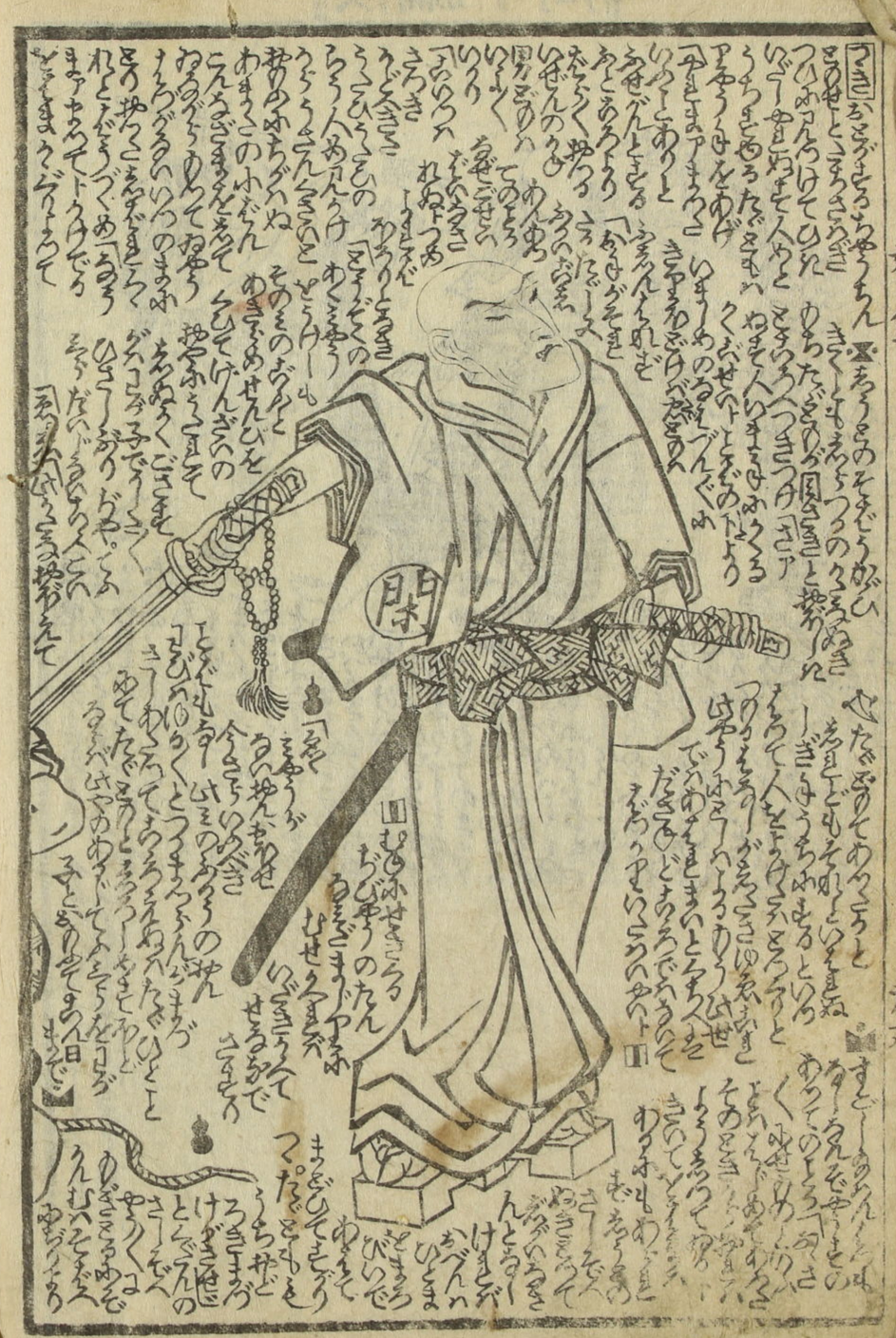
果金
十二

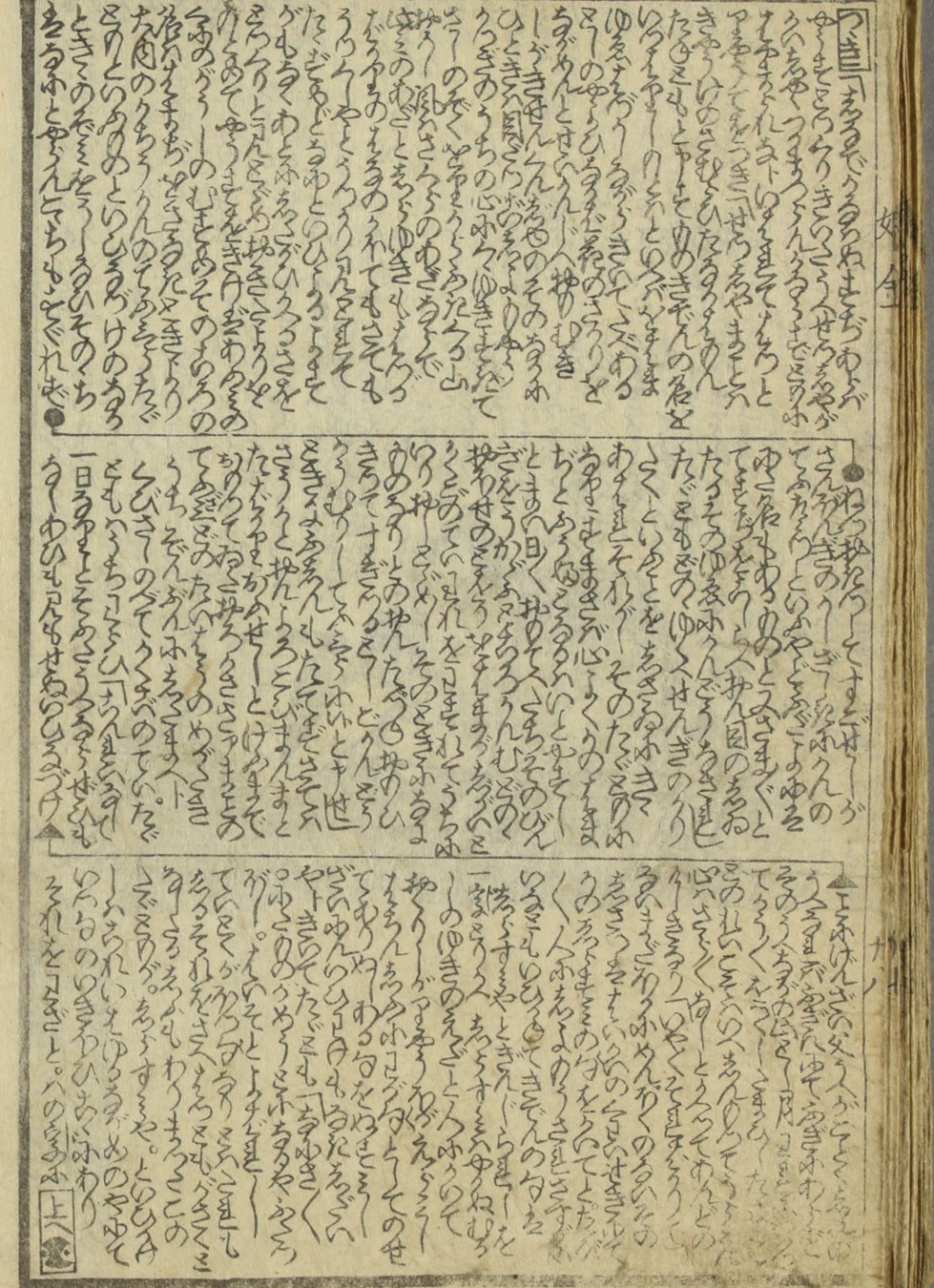
御影堂

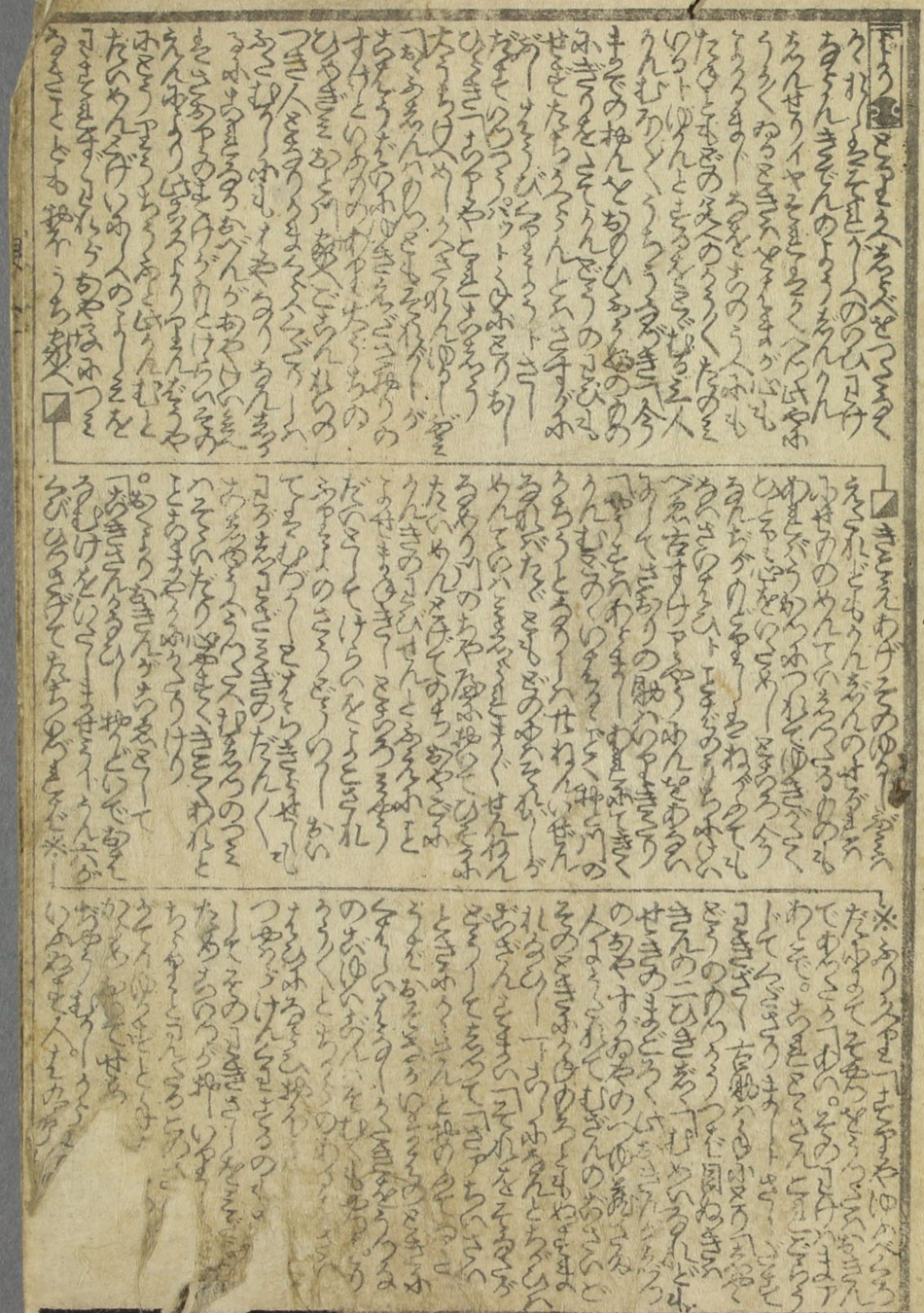
紳
忠

五の巻

六の巻







奴金
彩雲堂

歌川國貞画

柳亭種彦作

4